

抜き打ち調査実施報告書

法人名	社会福祉法人「愛生福祉会」
施設名	特別養護老人ホーム 豊寿園
実施日時	開始 2018年 6月26日(火) 0時26分 終了 2018年 6月26日(火) 8時30分
評価者名	本間郁子 是枝祥子 (2名)

※結果 (運営基準の順守)

抜き打ち調査 の職員の対応	0:26 にインターフォンを数回押すと宿直の職員が出てきてドアを開けてくれた。抜き打ち調査であること、同行者がいることを説明するとスムーズに対応してくれた。荷物を置く場所として会議室を使わせていただき、すぐに、調査を開始した。
------------------	---

夜勤者数	従来型：3ユニット、ショートステイ1ユニット、 個室・ユニット型施設：4ユニット 合計：定員90名+ショート10名で、夜勤者合計6名 (ショートステイ1名の夜勤者含む) (運営基準は5名。重要事項説明書通り)
拘束の有無	全居室(ショートステイは6人の居室確認)を確認した結果、拘束は無し。
プライバシーの確保	居室はドアが閉まっており(3名は開いていたが長いカーテンが掛けてありプライバシーは守られていた)全居室プライバシーが守られ、排泄介助も適切であった。
不適切な対応	無し。夜間、ほとんどの方が安心して休まれている様子を伺うことができた。深夜過ぎても寝付けない人に好きな時代劇のテレビを観ていただいたり、洗濯物をたたんでいただいたりしていた。時折様子をみていたが、寝ることを強制するようなことはなかった。夜間でも居室に入る場合は軽くノックをし、入室後の声かけも小さな声で睡眠を妨げる行為は見られなかった。

	コール対応も速やかに行っており利用者を大切にしていることが感じられた。不適切な状況は全く見受けられなかった。夜間は誰も見ていないが夜勤職員の細やかな対応が利用者の安全や安心につながっていることを実感した。
--	--

【特記】

・インターフォンを2回鳴らすと警備員が出てきた、「U ビジョン研究所の抜き打ち調査です」と告げると、玄関横のドアを開け対応した。評価者2名の他に同行する方が3名いたので、少しいぶかしそうであったが「常務には了解をいただいています」と言うと、黙って会議室に案内、ドアを開けてくれた。荷物を置かせていただき、同行者に簡単に説明し、すぐに調査を開始した。「実施書」は本館の職員に手渡した。

・夜勤体制は定員90名（従来型50名、4ユニット）、ショート10名（1ユニット）で夜勤者合計6名（ショーツステイ1名の夜勤者含む）配置しており、重要事項説明書に記載されている。コンプライアンスは守られていた。

・夜勤者1人に「愛生福祉会」の運営方針を尋ねると明確に答えることができた。

・拘束ゼロ、それぞれの居室は臭いもなし、コールは適切な場所に置かれていた。疑いのある不適切ケアは一切見る・感じるなどなかった。

・コールがあると、職員は居室に入るときに静かにノックしてからドアを開け、利用者に聞こえる程度の声で対応していた。歩き方も静かだった。排泄介助時も同様で夜間対応は良くできていた。いずれも言葉使いは丁寧でやさしさが感じられた。

・キッチン、シンク、冷蔵庫も清潔が保たれ、整理整頓できており、湯呑や食器には布をかけるなど、衛生的にも行き届いていた。夜間や調理用品も完璧に磨かれ。生活の質は高く、心地よい雰囲気と細やかな配慮が感じられた。

・トイレのオムツの置き方は、カーテンで見えないようにしているところが大半だった。ショーツステイの共用トイレだけオムツが見えていた。

・ユニットの入り口やグループの仕切りは季節感があり、それぞれ工夫が見られおもてなしの感じが伝わってきた。

・朝の起床介助も利用者に合わせており、髪や衣服もきちんとされ、一日の始まりが気持ちよくできていた。

・どの職員もあいさつはできていたが、リビングに座っており、こちらがあいさつしても返事をしないなどの態度が見られた夜勤の職員が一人だけいた。

・建物の外の玄関横の給水塔はウッドフェンスで上品に囲い、鉢をかけ、施設を訪ねて来る人や道を通る市民にとって、季節感や環境の豊かさを楽しむことができる雰囲気です。「最高のおもてなし」を感じることができる。訪問する度に工夫されていることが感じられ、職員の方々の施設への愛着と意識の高さが施設全体に根づいて来たのだと思えた。

【評価者コメント】

・今回2回目の抜き打ち調査には、高知新聞と高知放送(TV「こうち eye」18:15～)が同行しました。市民の安心と安全を保障するシステムを導入している特養ホームが存在することへの社会的役割を果たしていただいたことに感謝いたします。また、職員の協力に心より感謝申し上げます。

・入院者が一人もおらず、満室であった。健康状態が安定していることは、日頃の職員のケアの質が高いことと、他職種との連携が適切にできている結果であり、医療に対する家族などの意識や考え方も少し変化していることが背景にあるものと考えられる。夜間、利用者のほとんどの方がぐっすり休まれている、入室しても目を覚ますことがなかった。利用者が安心して寝ている姿は、夜勤者にしか見ることはできないが、日々のケアが行き届き、一人ひとりを大切にしているからだと思う。何よりも利用者との人間関係が良いのではないかとと思われる。施設全体に温かさと安住感があふれていた。

・利用者は不穏な人、健康状態が良くない人はおらず、全体的に落ち着いていた。本館の「ゆとり」グループの男性利用者が夜間帯ずっと起きて、食堂兼リビングで職員と一緒に洗濯物たたみをしたりして過ごしていた。あいさつすると、とてもにこやかにあいさつを返してくれた。2回目に行くと時代劇のテレビ映画を鑑賞中だったが、明け方7時過ぎにはソファに横になって休まっていた。

それに対応する職員は、無理に寝かせつけようとせずに、やさしく穏やかに付き合い、その人の生活リズムを尊重した対応をしていた。利用者の表情には、自分らしくありのままの生活スタイルで過ごしていることに対して豊寿園が居心地よく、職員への信頼が強いことを感じた。

利用者の居室はそれぞれが自分の部屋としての雰囲気があり、朝の起床介助も利用者に合わせて行っていた。起床後のベッド上の布団や衣類などもきちんとたたまれていて日頃のケアも丁寧に行っているのだと感じた。人権やプライドを守ることが自然にできていた。ケア一つひとつは小さなことですが、利用者にとっては生活の質そのものです。継続することは容易ではありませんが、前回よりも全体的にレベルアップしていたことを評価したい。

どの職員もいきいきと仕事に取り組んでいる姿は言葉では言い表せないが感じる事ができた。さらにやりがいのある仕事として多くの人に発信してほしい。